

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000530		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム あしきた		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字芦北2015-6		
自己評価作成日	平成21年 11月 14日	評価結果市町村受理日	平成22年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本県熊本市南熊本3丁目13-12-205
訪問調査日	平成21年 12月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは玄関ホールにもスロープが設置しており、バリアフリーで全室できています。各居室は明るく、そして利用者様が作られた作品を沢山飾っています。共用部分の居間や居室には季節感のある飾り物や花、造花等で彩をだしています。畑もあり野菜を作っています。収穫した野菜は利用者様の食卓に出します。旬の味覚を味わっていただけます。中庭の草取り、花の植え替えも利用者様に声かけお願いして協力してもらっています。職員は居間で利用者様と良く話しています。会話の中や生活の中から利用者様の状態をみて気がついた事に対して職員はその都度検討し対応策を考えています。職員は前向きに何にでも取り組んでいます。そしていつも明るく笑顔で利用者様に接しています。ご家族の相談事にも随時対応し、面会時には利用者様の様子等を報告しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町役場や消防署という公共機関が隣接し、山と海を味わえる環境にあるホームは、母体医療機関をはじめ、同法人の関係施設との連携は入居者・家族の安心したホームでの生活を支援している。職員の研修体制も確立し、法人事務局より発信される、医療・福祉に関する最新の情報は職員の意識を高め、一人ひとりのこれまでの生活を大切にされたケアが入居者の“今”を支えている。外部評価に対しても真摯な取り組みであり、運営推進会議や家族への報告、玄関への開示を行いケアに繋げていく姿勢は高く評価できる。インフルエンザの流行により地域との交流や外出支援の機会が制限されている中、「早く、海に沈む太陽の様子を入居者の方々と一緒に味わいたい・・・」と話す、職員の表情から日常の入居者との関係を窺い知ることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時壁に貼ってある理念を各人読んでいる。スタッフへの意識付けを行っている。利用者様のかかわりも理念に向けて意見の統一を図っています。	人間としての尊厳・主体性・個性の三項目の理念と併せ、運営方針の中に“地域との連携・協力・交流”を謳っている。運営者は機会あるごとに理念についての説明を行い、ホーム内への掲示やミーティングでの唱和、月例会議で意識徹底をはかり共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員は近隣の方への挨拶には常に心がけている。買い物に行っていたのですが、現在はインフルエンザ流行の為外出は控えています。ふれあう機会が少なくなりました。	入居者が地域の中で過ごすことの大切さを心にとめ、交流に努めている。ホームの目の前にある馴染みのスーパーは入居者と地域の方との憩いの場となっている。恒例となっている中学・高校の福祉体験はホームだよりにてその暖かい交流の様子が窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の行事に参加し地域の方々との交流を深めている。利用者様の作品を地域の方に見てもらえるように町主催の文化祭へ出品し交流に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の近況報告、及び他の委員からの質問、意見、要望を受けサービスの向上につなげています。	二ヶ月に一度の会議には各方面からの参加があり有意義な活動が展開されている。外部評価に対しても説明・報告がされ浸透している事が記録より窺える。民生委員さんの提案で、福祉スポーツ大会の見学など入居者の外出支援の機会にも繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者福祉課介護保険係等に気軽に尋ねに行ったりして常に担当者と連携を深めている。町主催の研修会にも、必ず参加しサービスの向上に活かしている。	隣接地にある町役場とは、運営推進会議や日常的に情報交換を行うなど担当者とも良好な協力関係が構築されている。又、法人として町主催の介護研修の講師など地域貢献にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の身体拘束に関する勉強会を法人の中で実施し、職員共有認識を図っている。職員の見守りの方法を徹底し、利用者様の状態を把握する事で自由な生活を支援している。	法人内の拘束委員会に参加し、研修会やホーム内でもスピーチロックやケアについて事例を通して共有を図っている。“全員が正しく理解しなければ徹底しない”という考えのもと些細なことでも気づきを述べ合う時間や職員の間を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会にも必ず参加し、虐待がないように注意し防止に努めています。職員全員が意識を持って取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会が主催する成年後見制度の勉強会等参加している。現在対象者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時丁寧に、利用料金、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制の実際などについて説明し、同意を得るようにしている。ホーム見学の際にも十分な説明をに対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも利用者様と話できる関係であり、意見、不満等聞いている。内容を必ず職員で話し合い運営に反映させている。玄関には意見箱設置している面会時家族とのコミュニケーションに心がけ、意見や要望を聞くようにしている。	日頃の会話より入居者の要望を汲み取る事を大切にしている。家族の面会の際要望や意見の出しやすい雰囲気作りを努めている。水分補給に対する要望に対してジュースや寒天での個別支援により対応に取り組んでいる。	今後も、家族の要望・意見に対して改善した点など、家族会やホーム便りなどを通して報告されていくことで、ますます信頼関係も構築され、家族からの些細な要望や意見もホーム運営に繋がっていくことが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で業務検討会を行い意見等出し合い聞くようにしている。先生、事務長を交えた運営会議の席で意見や提案を出しあって運営に反映させています。	ミーティングや月例会で意見や気付きを出し合っている。車椅子に配慮した材質の畳使用や安全・気持ちよい入浴支援の為にシャワーチェア購入など改善に繋がった。運営者・法人事務局・管理者も職員が、より良いケアに繋がる仕事になるよう、話し合いの場を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は全職員を常勤している。産休産後等福利厚生が確立しており、継続して働く事が出来る事で離職防止になっている。職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会、町主催の研修やリーダ研修会等全職員が参加出来るような体制を作っている。研修報告は毎月の全体会議(月例会)の時発表しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの城南地区ブロック会議に参加し情報交換に努めています。同法人同士の交流や近隣のグループホームとも交流して質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様にはそれぞれ担当の職員がいる為担当で色々な事を尋ねたりしてコミュニケーションを取っています。担当が困った時には全職員で検討し受け止められるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時には、利用者様の事を話したり家族の方に心配等はないか聴くような機会を作り、家族の相談をゆっくり聞くようにしている。話を聴く事で次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様からの相談があった時には職員で話し合い状況を確認しながら、改善に向けた支援の提案し必要なサービスにつなげるようにしている。場合によっては法人の支援相談員に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識は持たず利用者様が出来る所はして頂き出来ない所を助けるこのことを大切にしています。利用者様と職員が協働しながら和やかな生活が出来るように場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を報告、相談している。特に現在インフルエンザの影響で面会が限られている為利用者様を支えていくための協力関係をよりよく努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型インフルエンザの影響で面会が限られている為面会も少なくなった。職員は関係が途切れないように地域に利用者様を連れてドライブに出かけるような支援に努めている。	馴染みの美容院や地域の顔馴染みのスーパー利用をはじめ、家族の協力のもと墓参・親類の集まり・外出を兼ねた外食など関係が途切れないよう継続支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に利用者様が心身の状態や気分、感情で時々変化する事もあるので注意し見守っている毎日のおやつ、食事の時間も職員と一緒に多くの会話を持つように、利用者様との関係が円滑になるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた利用者様の家に遊びに行ったり事業所の行事に参加されるように案内している。これまでの暮らしの継続が損なわれないように、生活環境、注意が必要な点について情報提供しきめ細かな連携に心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を決めている為利用者様からの希望や意向を担当職員の意見をもとに聴いている。そして情報の共有化に努め、利用者様本位のケアに反映させています。	管理者による入居前の自宅・医療機関などの訪問やアセスメントによる情報をもとに、本人の意向把握に努めている。又、面会の家族からもその時の入居者の思いや気づきを尋ね、本人本位のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様からの話や前施設からの看護サマリー等にて経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い利用者様の状態把握に努めている。体調の変化には職員が常に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様等に要望を尋ねそしてカンファレンスを開催し介護計画を立てている。センター方式を採用し担当により記入されている為職員の意見の反映されたプランが出来ています。	職員は入居者や家族のケアに対する要望を常に全員で共有しながら、医師・看護師などの意見を踏まえ、ホームの心がける“個々の持っている能力を生かすケア”である介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護保険の更新時期、半年の定期的な見直しには必ず担当者会議を開催し、家族の意向や担当の意見、利用者様の要望等を状況及び今の現状に即した見直しを行っている。利用者様の情報は職員常に共有し介護の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、一人一人の満足度を高めるよう努力している。母体が医院の為医療との連携により受診、入院、病気の早期発見に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議には区長、民生委員と意見を交換するようにしている。年1回の避難訓練には消防署及びQネットから参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医院がかかりつけである。その為日常的な受診や緊急時対応、夜間の往診等適切に医療が支援されています。利用者様の状態報告は常にホームの医師である理事長及び訪問看護に相談報告しています。	母体医院をかかりつけ医とし、日常的な受診や定期健診・訪問看護により入居者の健康管理・維持に努めている。随時の受診・検診報告や、夜間・救急時の対応体制は入居者や家族の安心・信頼に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院との看護婦と常に連絡をとっています。週1回の訪問看護にも利用者様の状態報告し、早期発見に取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医院が法人内の医院であり常に連絡を取り合っている。ホームの利用者様が医院に入院されたり、退院される時にも早めに連絡しあう等連携を図っている。又入院時には家族の方への状態報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時家族の意見を必ず尋ねている。状態変化時には家族と相談し、かかりつけ医院との連携を図っている。母体が医院であり併設に老健がある為医療行為が必要になる時には入院等の検討を行っている。利用者様や家族の意向を踏まえ随時意志を確認しながら取り組んでいる。	入居時に説明・確認を行っている。現在の所、医療行為が必要になった場合は、母体医院への入院を希望する入居者・家族が殆どである。今後も協力医院や訪問看護・併設施設など関係機関の連携を大切に、本人・家族の意向に沿った支援に努めたいとしている。	重度化や終末期のあり方について、経験豊かな職員と新職員も含めた共有に繋がるホーム内の研修を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修会に参加し応急手当や初期対応の訓練を実施しています。緊急時対応マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル等作成し年1回利用者様と一緒に避難訓練を行っている。消防署立会いのもと実施しています。通報、消火器の使い方、避難等利用者様 職員、民生委員さん参加で行っています。	隣接している消防署や区長・民生委員さんも参加しての避難訓練を年二回行っている。訓練に際しては地域に”お知らせ”を配布し周知に努めている。昨年度避難口としてフェンスの改善にも早急に対応を行った。	インフルエンザにより中止された地域の方の協力による訓練が、次回は実践され、これまで同様協力体制が強化されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様一人一人の事を把握し言葉かけひとつにしても利用者様がわかり易く親しみやすい方言等を交えながら話しています。居室に入る際必ずノックをするか声かけをしています。個別の情報の守秘義務は職員十分に理解しています	法人の接遇委員会の研修に参加したり、ホーム内でも申し送り時などに入居者の尊厳を大切にしたいケアについて確認・共有を行っている。呼称も本人や家族に確認し、方言や親しみの中にも節度ある言葉での会話を心掛けている。重要書類は事務所で保管し個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望等は良く聞いて本人が納得されるよう説明し支援している。利用者様の状態に合わせて本人が答えやすくしています。難聴の方には、メモ用紙で筆談し曖昧な伝わりかたにならないように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない。利用者様のペースや体調を考慮しながら利用者様の気持ちを尊重した対応に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時の着替え等出きる方は本人様の意思で決めて着替えもしておられます。自己決定がしにくい利用者様には職員が見守り及び介助をしています。外出着もそれぞれ持っておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームには畑がある為その日に収穫した野菜が食卓に出る事もあります。そんな時には利用者様に話をしています。食事の茶碗等の配膳、お茶酌み、箸並べを手伝ってもらっています。	入居者の好みや意向を取り入れた献立を作成し、差し入れ食材や菜園の野菜を臨機応変に使用し調理している。入居者も準備や片付けなどできることを一緒に行い、職員の見守りや介助の中、和やかな食事の時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調と一日の摂取量は把握している食事量も個々に合わせて確認し、利用者様の好きな食べ物や食べやすい物を提供している。お粥やきざみの方の支援が多くみられるようになった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは洗面所にて行い、自分で出来るかたには声かけ見守りをし、出来ない方には、お茶にて口腔ケアを行っている。利用者様個人に応じた歯磨きの手伝いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者様の様子から敏感に察知し、トイレでの排泄を大切にしながらパット類も利用者様に合わせ使用していません。尿意がない利用者様には時間を見計らって誘導しています。	排泄チェック表により個々のパターンを把握し、プライバシーに配慮しながらタイミングよく声かけ・誘導により支援している。夜間も自立や時間をみでの誘導などそれぞれの対応である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し便秘の方には十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供している。Dr指示のもと下剤服用の利用者様もおられますが、職員は自然排便を促す工夫も意識しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望や、体調を考慮しながらそれに応じて毎日入浴を行っている。町内にある温泉施設にも出かけていたが新型インフルエンザの流行に伴い現在は見合わせている。	希望に応じ毎日入浴支援できるよう準備している。シャワーチェアへの購入や職員のアイデアによる足浴用具で、より安心な支援となっている。浴室は清潔を食事やドライブを兼ねた温泉施設利用は、楽しみの一つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に応じて対応していますが、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めています。夜間は眠られるよう夕方からはゆっくりとした時間の過ごし方をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルに綴じ職員が内容を把握出来るようにしている。薬の処方や容量が変更されたり、利用者様の状態変化が見られる時にはかかりつけ医院との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願い出来るような仕事(庭の草取り、食事の時の配膳)を頼み、そしてお礼の言葉を伝えるようにしている。利用者様によっては居室で新聞を読んだり、雑誌を見ておられる事もあります。季節事の行事を入れ必ず全員が喜ばれる事をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出、外食、買い物等の行事計画を行っていたが、新型インフルエンザの流行にて現在実施出来ていない。町内のドライブに利用者様を連れて出かけている。	近隣の散歩やプランターや菜園の管理・買い物など入居者の体調や希望に応じ支援し、ドライブや季節の花見も楽しんでいる。又、家族の協力により祝い事への外出も実施された。新型インフルエンザにより外出の機会が制限された分、今後の外出支援を楽しみたいとしている。	不安なく外出できる状況になった場合は、以前同様職員や家族の協力により楽しい外出が行なわれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている利用者様が一人おられる。他の利用者様は家族の方より預かり事業所で管理している。買い物に出かける時等本人様が払われるようにお金を手渡す事を行っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話は自由に掛けてもらっています。ご家族様からの電話の取次ぎも出来ます。年賀状を出すことの支援もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事の花を飾ったり、利用者様が作られた作品を廊下等に飾ったりしています。暑さ防止と涼しさを感じるようにすだれやよしずを設置している。居室の入口にはのれんを下げ、優しい感じとプライバシー保護に努めている。家族の方の手作りの品や懐かしい調度品が置いてある。	庭の樹木や菜園・ホーム内も季節に応じた掲示物が心和む空間である。車いす利用者も多いことから畳の材質にも配慮している。居室と併せ、リビングや浴室・トイレをはじめ共用空間は換気や小まめな掃除により清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには手作りの長椅子を置き、絵画や花等を飾り温かな空間を作っている。食堂から居間はバリアフリーになっている為全てが視野にはいりやすい。利用者様が落ち着いてくつろげるスペース作りに職員取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様が持って来られた手作りのオルゴール・そして写真や思い出の品々が持ち込まれて利用者様の居心地のよさが配慮されている。持込の少ない利用者様には職員がアイデアをだし温かな居室になるように配慮しています。	入居の際馴染みの品の持ち込みを依頼している。和・洋の居室にはそれぞれに合ったテーブルや椅子をホームで準備し、入居者や家族もゆっくり寛げるよう支援している。のれん・すだれを利用し、日よけやプライバシーに配慮しながら居心地の良さに繋げている。	居室の掲示物の見直しと合わせ、今後も家族の協力や職員の配慮による居室作りに期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり廊下にも手すりが設置してあるベットの高さもそれぞれに調整してある。トイレに長い手すりを設置し利用者様の身体状況に合わせた支援を行っている。職員は常に状況に合わせて環境整備に努めている。		